

経営比較分析表（令和元年度決算）

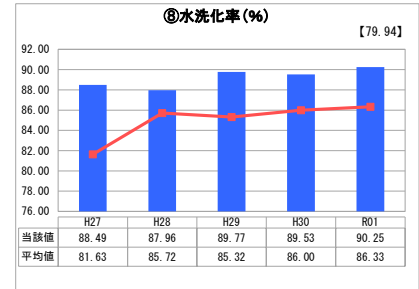
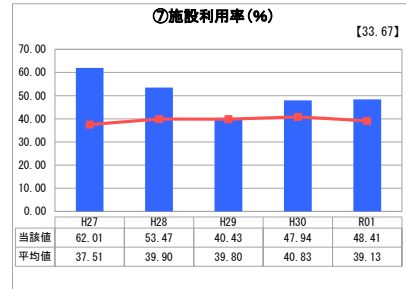
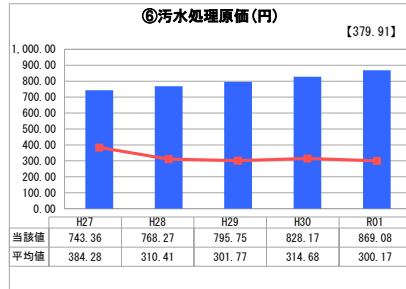
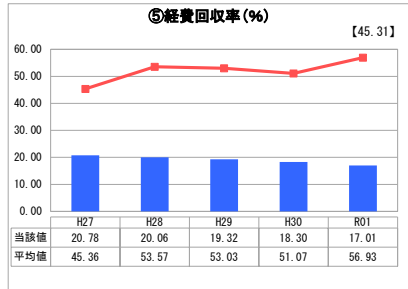
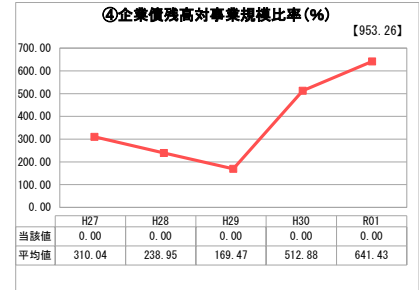
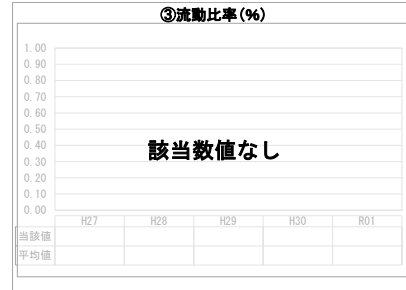
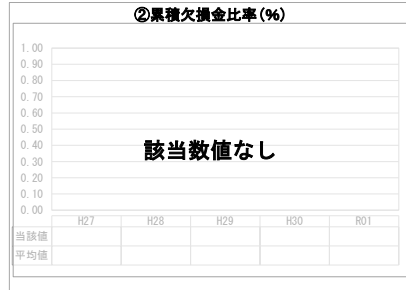
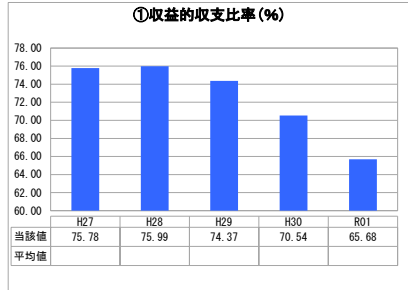
福岡県 福岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	漁業集落排水	H1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	0.13	74.34	2,602

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,554,229	343.46	4,525.21
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,908	0.51	3,741.18

グラフ凡例
■ 当該団体の値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「収益の収支比率」は、年々減少傾向にあります。これは、平成20年度より複数の施設で老朽化に伴う大規模な機能更新を行い、一時的に市債の発行が多くなってきていることが要因です。令和元年度に機能更新は完了しましたが、元償還額が少額になるまでは低水準が続くと考えられます。

「経費回収率」は、ほぼ横ばいで推移しており、類似団体平均を下回る水準にあります。これは、市民サービスの公平性の観点から公共下水道使用料と同じ料金体制をとっているため、集落排水の排水処理にかかる経費に対して、使用料収入が不足していることが要因です。

「汚水処理原価」は、類似団体平均と比べ高い水準にあります。これは処理区域人口の減少による年間有収水量の減少や離島の処理費が高コストになる等の要因によるものと考えられます。

「施設利用率」は、例年、類似団体平均を上回る水準で推移しており、比較的効率的な施設の運用を行っております。

「水洗化率」は、例年、類似団体平均と比べ高い水準ですが、さらなる水洗化率向上を図ってまいります。

2. 老朽化の状況について

排水処理場については、昭和60年から平成16年にかけて順次供用開始しており、近年は老朽化に伴い機器類の不具合が発生しております。

このため、各処理場について機能診断調査を行い、平成22年度から令和元年度にかけて国の補助金を活用し、順次電気・機械機器の更新を行いました。

また、管路については更新時期を迎えていないことから、更新は未着手であり、改善率は0%となっております。

今後も長期的視点に立ってアセットマネジメントに取り組み、延命化を図りながら施設の的確な維持管理や運営を行ってまいります。

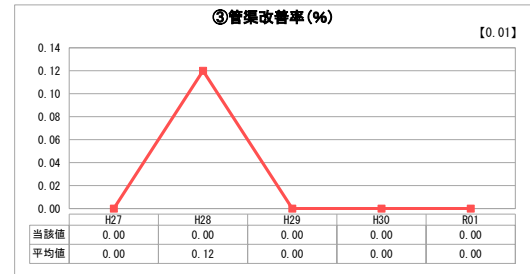
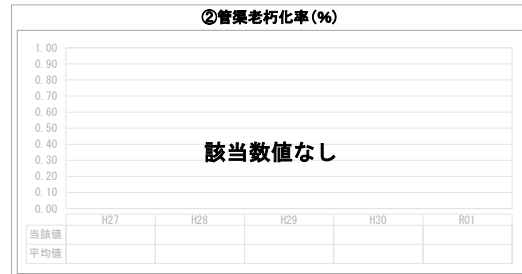
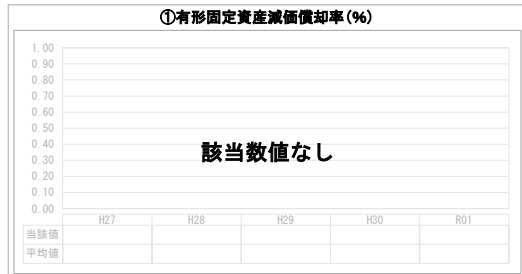
全体総括

集落排水事業の経営状況については、収益の収支比率の減少傾向が継続しています。老朽化に伴う排水処理施設の機器更新のため、一時的に市債の発行が多くなっていることから、今後も減少傾向が続くものと思われます。

また、経費回収率も類似団体平均より低い状況にあります。

今後、経営手法の見直しや維持管理費などの歳出削減等について検討し、経営の健全化・効率化に向けた取り組みを行ってまいります。

2. 老朽化の状況



※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益の収支比率の類似団体平均等を表示していません。